

クラス	306	担当教員	渡辺 颯一郎
テーマ	子ども家庭福祉における実践研究		
著書・論文	【著書】 『子ども家庭支援の理論と方法 ―保育・子育て・障害児支援・社会的養護の動向をふまえて―』金子書房、2024 年（共著） 『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引（第 4 版）』中央法規、2022 年 『「気になる子ども」と「気にする先生」への支援』金子書房、2013 年（共著） など		
研究課題等	【最近の研究論文】 ・『地域子育て支援拠点事業における障害児等支援に関する調査研究』（厚生労働省 令和 3 年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業）、2021 年. ・「障害児通所支援事業所の利用決定過程における保護者の情報収集・検索に関する全国調査：第三者評価の認知と支援の質の向上に向けて」 『帝京大学心理学紀要』 (24), 2020 年（共著）.		
ゼミナール概要			
キーワード： 子ども家庭福祉、子育て支援、障害児支援			
目的、内容、方法、授業計画等：			
最近では、母親が子育てをもっぱら一人で担う状態を「ワンオペ育児」と呼ぶようになり、母親に集中する家庭内の役割やその負担感の大きさが問題視されるようになっていきます。その背景には、家庭の孤立化が進み、親族や地域の手助けを得られなくなってきたことや、父親（夫）ですら子育てに協力的でないなど、日本の社会にみられる特有の問題が密接に関係しています。育児不安を抱える母親、障害児を養育する家庭、ひとり親家庭などの多様な家庭を、社会全体で支えていくために、保育士や教員はどのような役割を担っていくべきでしょうか。			
【目的】			
ゼミでは、子育て支援センターや障害児通所支援事業などの現場に出向いて活動したり、フィールドワークを通して実践的な研究を進めていきます。ゼミ生と一緒に現場に出て実践的な研究に取り組むことを楽しみにしています。			
【内容】			
・子どもだけでなく、子育てを行う親の立場から地域の子育て支援の必要性を理解し、地域子育て支援拠点の役割や、さらには市町村を核とする包括的支援のあり方について学ぶ。 ・発達障害児などを中心に、発達に課題がある子どもとその保護者への支援について学ぶ。とくに、障害のある子ども本人の目線に立ってその「生きづらさ」を理解し、保育や教育等の場面における支援（とくに合理的配慮、ABA、感覚統合）について学ぶ。			
【方法】			
・事前にグループでの課題研究を行った上で、保育所、子育て支援センター、児童発達支援、放課後等デイサービスなどの現場に出向いて活動を行う。実践に基づいた研究を指向する。 ・県内の近隣地域だけでなく、夏期休暇中に合宿を兼ねて県外の先進的な活動団体への視察（ボランティアを含む）を行う。2025 年度は横浜市（または香川県）の地域子育て支援拠点や障害児支援事業所での視察・活動を予定している。			
卒業研究：			
・卒業研究については、3 年後期から研究課題を設定し、科学的な考察や実証的研究の進め方を学ぶ。 ・4 年次には個別指導を中心に、卒業研究を完成させるための指導を行う。			
担当教員からのメッセージ			
机上の学習だけでなく、現場に出向いての活動を大切にするので、積極的に実践の中に身を置いて子どもや保護者とかわることを希望する学生を募ります！			